

3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 豊後高田市中心市街地活性化の目標

これまでの取り組みの検証、さらに本市の厳しい財政状況を踏まえ、今後についても第1期基本計画と同様に、『コンパクトシティの維持』、『選択と集中』による視点で、継続的なまちづくりを行っていくことが必要である。

市政方針である「市民一人ひとりの夢のあるまち豊後高田」の創造と、本市の「未来」を切り拓くけん引車となるべく、「にぎわいと憩い、そして魅力の創出でさらに愛される“まちなか”」の実現を目指していくこととし、『真に必要で効果の高い施策』を行うため、前述の方針を踏まえて、引き続き『地域の生き残り』をかけて目標をしっかりと設定する。

目標① いとおしく懐かしいおまち —飛躍—

商業者・観光まちづくり株式会社・商工会議所・行政の4者が、それぞれが担うべき役割を再認識し、相互に補完・連携を図りながら、第1期基本計画の取り組みにより、「進化」を遂げた「昭和の町」（西側商店街）の「飛躍」を目指す。

「昭和の町」の取り組みの原点に立ち返り、「昭和の4つの再生」を基本に「昭和の町」を形成する店舗の拡充等を行うことにより、景観面を含めた統一イメージの促進を図る。また魅力ある地域ブランドの発表の場＝“ハレの場”としての個店づくりや新たな拠点施設づくり、既存施設のリニューアルを行い、観光交流機能を強化する。

以上の取り組みを進め、第1期基本計画と同様に、観光入り込み客数の増大を目指すとともに、まちなか回遊性、滞在時間の延長及び観光消費額の増加などを図り、商店街における波及効果を地域に増大させる。

目標② 高齢者が楽しいおまち —進化—

地域の特徴を活かし、地域住民との連携を図りながら、第1期基本計画の取り組みによりコンセプトが確立できた玉津地区（東側商店街）の「進化」を目指す。

「遊ぶ、食べる、集う、交流する」の4つのテーマを基本に、既存の高齢者交流施設の機能強化、プラチナ世代が買い物を楽しめるための個店づくり、新たな交流拠点施設づくりや高齢者向けサービスの充実、元気で健康なまちづくりに資する取り組みを行い、“玉津地区ならではの”魅力を強化する。

以上の取り組みを進め、第1期基本計画と同様に、高齢者交流人口の増大を目指すとともに、新たな来街目的を付与することにより、高齢者のみにとらわれず、子ども・大人・プラチナ世代といったあらゆる世代の来街を促し、「玉津プラチナ通り」における波及効果を地域に増大させる。

目標③ 市民がうれしいおまち ー創造ー

“まちなか”に新たな魅力と様々な都市機能を集積させ、市民生活の上で、便利で多機能なまちづくりを行うことにより、市民の夢をかなえ、喜びを与え、うれしく思っていただけ“おまち”の「創造」を目指す。

上記目標①、目標②の取り組みに加え、教育（学び）環境、子育て環境、生活基盤の整備等を行うなど、多角的・総合的な視点から各種施策を実行し、それぞれの施策の相乗効果を図ることにより、トータルとして“まちなか”の魅力アップを目指す。

特に“まちなか”に日常において多くの市民が集い、交流ができ、憩いの空間となる核施設がないことから、子ども・大人・プラチナ世代といったあらゆる世代が楽しみ、学べ、安心して公共サービスが受けられる拠点施設の整備を行う。このことにより、「市民がうれしいと思える“おまち”」の創造を実現させ、より多くの市民を“まちなか”に呼び込むことによって、その波及効果を地域に増大させる。

[2] 計画期間の考え方

本基本計画の計画期間は、平成24年4月から、主要な事業が完了し、事業実施の効果が現れると考えられる平成29年3月までの5年とする。

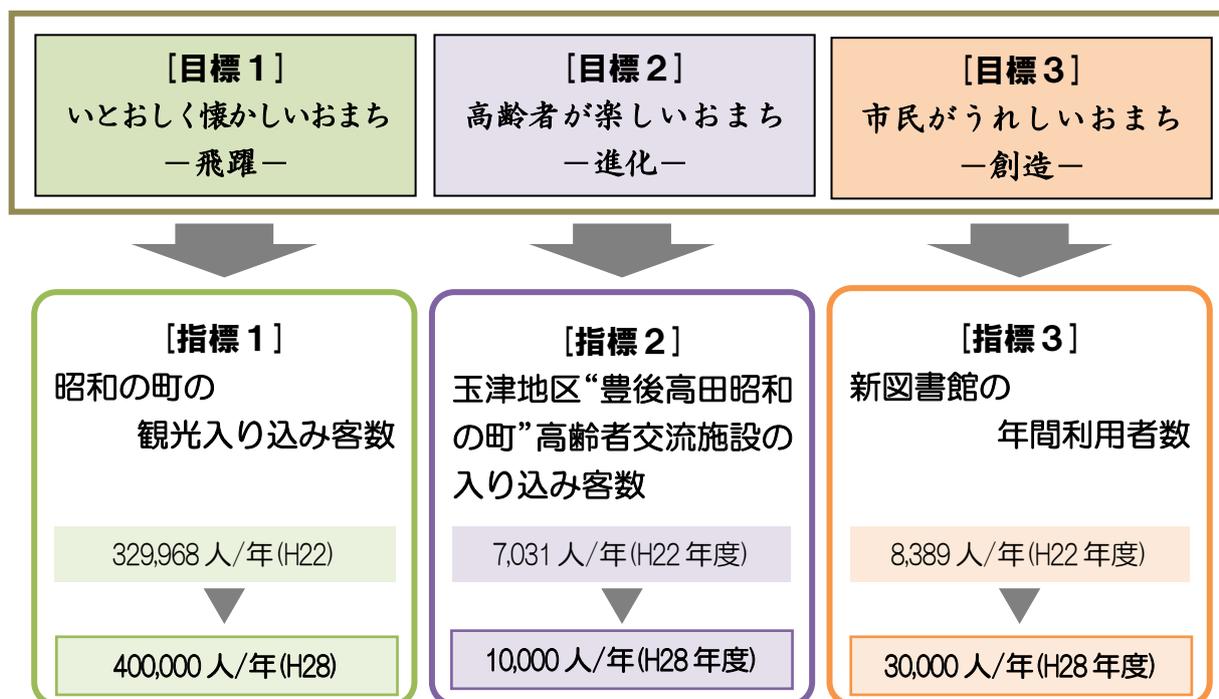
[3] 目標達成状況を把握するための指標設定の考え方

中心市街地の目標に対する達成状況を把握するために、具体的な活性化の成果指標を定めるとともに、その数値のフォローアップを行うことを通じて、達成状況の進捗管理を図る。

中心市街地の活性化の目標を踏まえ、それぞれの達成状況を把握できる成果指標を以下のように設定する。

■ 基本的な方針

市民にも観光客にも愛される“おまち”へ
にぎわいと憩い、そして魅力の創出で
さらに愛される“まちなか”へ



目標1 いとおしく懐かしいおまちー飛躍ー

[いとおしく懐かしいおまちー飛躍ーの達成状況を表す指標]

● 豊後高田昭和の町の年間観光入り込み客数

『豊後高田昭和の町』の取り組みは、既存商店街の再生を念頭に、“観光”という要素を取り入れて行ってきた。このため、第1期基本計画では、観光交流人口の増加が活性化の実態を把握する指標として適切であると判断し、「昭和の町」への年間観光入り込み客数を指標として設定した。

今後についても、商店街再生への取り組みのベースは不変であり、引き続き観光拠点施設の整備、特色ある商業の活性化、魅力ある街並み景観の形成等により、「昭和の町」全体として観光客の増大を目指すことから、本計画についても同指標を設定する。

目標2 高齢者が楽しいおまちー進化ー

[高齢者が楽しいおまちー進化ーの達成状況を表す指標]

● 玉津地区“豊後高田昭和の町”高齢者交流施設の入り込み客数

第1期基本計画では、依然として人通りも少なくさみしい状況が続いていた『玉津地区』について、高齢者の市民をターゲットとした『昭和の町・高齢者が楽しいおまち』として、まちづくりのチャレンジを開始した。玉津地区への来街状況を把握するためには、その拠点施設となる空ビルを活用した高齢者交流施設への入り込み状況を指標として設定するのが適切であると判断し、当該数値を指標として設定を行った。

今後についても、同地区に係るまちづくりコンセプトを踏襲し、さらなる「進化」を目指すことから、引き続き『玉津地区』の核施設である同施設の入り込み状況を本計画の指標として設定する。

目標3 市民がうれしいおまち—創造—

〔市民がうれしいおまち—創造—の達成状況を表す指標〕

●新図書館の年間利用者数

子ども・大人・プラチナ世代といったあらゆる世代をターゲットに、“まちなか”のさらなる魅力向上を図ることとし、「市民がうれしいおまち」の創造を新たな目標に掲げチャレンジする。

本目標については、都市機能として、市民が集い、交流ができ、憩いの空間となる核施設の整備を行い、“まちなか”に新たな魅力を創出することにより、「市民がうれしいと思える“おまち”」の創造を実現させ、より多くの市民の来街を目指すものである。

今後、市民ニーズに沿った新図書館とその隣接地に新たな市民の憩いと交流の場となる都市公園を整備する方針である。新図書館と都市公園を一体的に整備することにより、同エリアに多くの市民、観光客を誘客し、新図書館に多くの利用者を引き込む仕掛けづくりを行うことから、本目標の達成状況を表す指標として、新図書館の年間利用者数を設定する。

なお、本図書館は、従来の図書館機能にとどまらず、市民が憩える公園へ通じるアプローチ、休憩・交流のためのロビー、市民講座のための集会室等、様々な機能を兼ね備えたものを整備することとしており、これまでの中心市街地にはない、市民にとって魅力ある拠点施設となり得るものである。

[4] 数値目標の設定

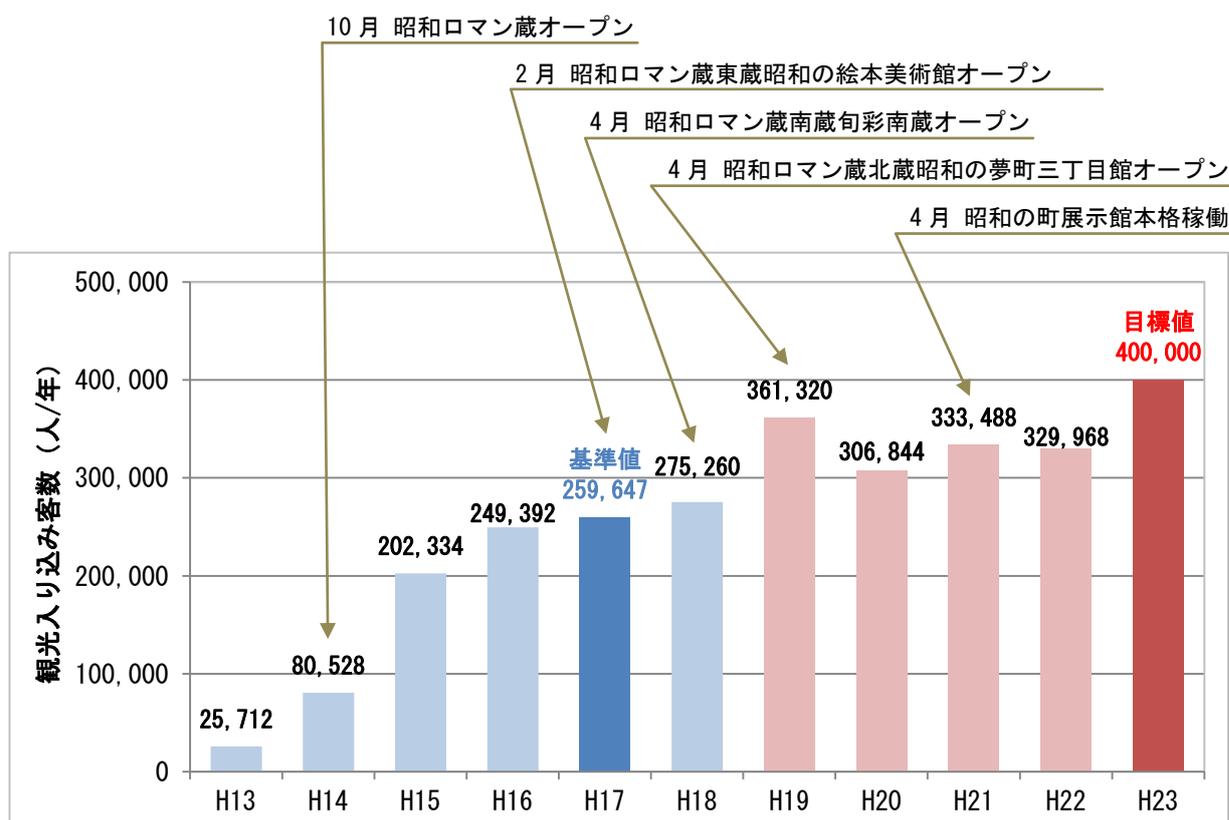
(1) いとおしく懐かしいおまち－飛躍－の達成状況を表す指標

1) 目標値の設定

| 評価指標 | 現況値 (H22) ※暦年 | 目標値 (H28) ※暦年 | 備考 |
|---------------|------------------|------------------|-----------------|
| 昭和の町の観光入り込み客数 | 329,968 人/年 | 400,000 人/年 | 昭和ロマン蔵北小蔵への来街者数 |

平成13年度から取り組みをはじめた『豊後高田昭和の町』は、特に、昭和ロマン蔵がオープンした平成14年10月以降、観光客数が急激に増加しており、その後の昭和ロマン蔵の拡充、新規施設の整備によって確実に誘客効果が図られていることがわかる。

〈昭和の町の年間観光入り込み客数推移（第1期基本計画）〉



(豊後高田市資料より)

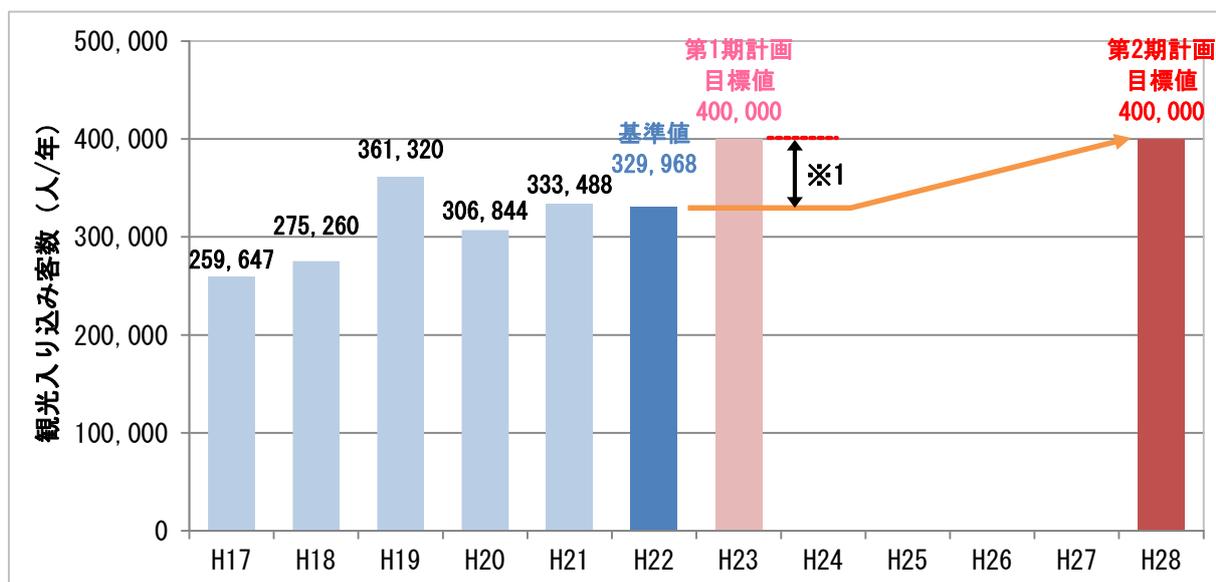
第1期基本計画では、平成21年に「昭和の町」の拠点遊休地である野村財閥屋敷跡（大分銀行跡）に新規施設を整備することでさらなる誘客を図り、最終的に観光入り込み客数400,000人の達成を目指すものであった。

同施設の整備は遅延している状況にあるが、昭和の町誕生10周年記念行事等でカバーし、目標達成すべく取り組み中である。(p.18~25に記載)

本計画では、第1期基本計画で遅延となった拠点施設活用事業を核に、昭和の町・玉津プラチナ通りでの新たなイベントの実施、平成23年度から改修後の中央公園で実施しているイベントの継続等により、現況値である平成22年の観光入り込み客数（約330,000人）から、新たな観光入り込み（約74,500人増）を図ることで、年間400,000人（目標年次：平成28年）の達成を目指すものとする。

●現況値（H22） 329,968人 ……………▶74,500人の純増を目指す。

〈昭和の町の観光入り込み客数の推移と目標値〉



2) 基準値（現況値）設定の考え方

第1期基本計画の目標である平成23年時点での観光入り込み客数400,000人については、野村財閥屋敷跡（大分銀行跡）を活用した拠点施設整備の遅延による影響分を昭和の町誕生10周年記念行事・関連イベント等でカバーすることにより達成は可能な見込みとなっている。（途中経過ではあるが、現時点（H23.10月）における平成23年の入り込み客数は、これまでで最も多かった平成19年を上回るペースで進捗している。）

以上のことから、上記グラフの「※1」の部分については、昭和の町誕生10周年に伴う記念行事・関連イベント、中央公園のリニューアルに伴う効果大きい。

昭和の町誕生10周年については、平成23年のみで一過性のものである。また、中央公園についてもリニューアル直後ということもあり、最も集客効果が現れる時期であるため、これらは総じて特殊要因であることから、永続的な効果は期待できない。

したがって、本目標については平成22年の観光入り込み客数を基準値とし、第1期基本計画で遅延となっている拠点施設の整備、「昭和の町」の取り組みの原点である「昭和の4つ再生」に基づく各種取り組み等を実行し、確実な目標達成を目指すものとする。

3) 目標値達成に向けた取り組みと期待される効果

①各種取り組みにより期待される効果

| 核施設整備等の事業・取り組み | 事業効果（人/年） |
|-----------------------------|------------------|
| ●集客力のある施設の整備 | |
| i) 高次都市施設事業（昭和の町新拠点施設整備事業） | 68,000人 |
| ●集客力のあるイベントの実施 | |
| ii) 活動支援事業によるイベントの実施 | 2,000人 |
| iii) 中央公園イベント広場を活用したイベントの継続 | 4,500人 |
| ●相乗効果の見込める各種ソフト事業等 | |
| iv) まちなかの魅力向上に資する各種事業 | — |
| 各種取り組みによる増加見込み | 計 74,500人 |

②期待される効果の推計方法

過去の実績を分析すると、改めて観光施策において拠点施設の整備は、集客面での効果が高いことが窺える。第1期基本計画については、平成17年にオープンした『昭和の絵本美術館』による観光客推移を基準として、のちに整備する新規施設の観光入り込み客数を推計した。

新規施設の整備が観光入り込み客数の増加につながるというトレンドに大きな変化はないことから、本計画についても、第1期基本計画と同様の考え方を基本とする。ただし昨今の景気低迷など社会経済情勢の変動により、平成17年時と比べて、「昭和の町」を取り巻く環境も大きく変化していることから、直近の施設整備による「昭和の町」の観光入り込み客数の増加を基準とする。

また、近年のトレンドをみると、観光入り込み客数は新規施設を整備した年または翌年については伸びるが、その後はある程度落ち着いていく傾向にある。そのため、新規施設の整備を観光入り込み客数増加のための核事業と位置づけ、その他に昭和にちなんだ新たなイベント、既存拠点施設のリニューアルを実施し、それぞれの事業の相乗効果を目指すことにより、「昭和の町」全体の魅力を高め、確実な集客効果を目指すものとする。

i) 高次都市施設（昭和の町新拠点施設整備事業 平成25年度～平成26年度）

平成20年度に旧大分合同銀行整備事業により、昭和の町展示館（施設面積356m²）を整備している。平成20年から平成22年の観光入り込み客数が実績値で約23,000人増加（306,844人⇒329,968人）していることから、本数値を基礎に新規施設の整備による観光入り込み客数を推測する。

〈観光入り込み客数増に資する事業の分析〉

| 項目 | 年 | 入り込み客数増加分 | 備考 |
|--------------------|---------|-----------|----------|
| 昭和の町観光入り込み客数の増 | H20⇒H22 | 23,124人 | 実績値[H22] |
| 昭和の町展示館本格稼働による客数の増 | H20⇒H22 | 25,533人 | 実績値[H22] |
| ボンネットバス導入による客数の増 | H20⇒H22 | 17,624人 | 実績値[H22] |

※昭和の町展示館はH20.4オープン。初年度は休日のみ稼働（85日）で、年間入り込み客数は、26,304人。H22.4から稼働日数を大幅に増やしたことから（348日）、年間入り込み客数は、51,837人となっている。（25,533人増）

平成20年から平成22年にかけて、昭和の町観光入り込み客数増に資する主事業は、上記の「昭和の町展示館」の稼働日数増及び「ボンネットバス導入」と推察でき、この2事業の効果は、43,157人となっている。

しかし、この間の昭和の町観光入り込み客数増は23,124人に留まっており、事業効果は限定的となっている。

以上のことから、新規施設等の整備に伴う「昭和の町全体の観光入り込み客数増」に資する効果の発現率を下記のとおり見込むものとする。

$$23,124 \text{ 人} \div (25,533 \text{ 人} + 17,624 \text{ 人}) = 53.5 \approx 50\%$$

〈新規施設整備による観光入り込み客数の増加予測〉

| 施設名 | 施設面積 | 入り込み客数増加分 | 備考 |
|------------------------|-------|--|----------|
| 旧大分合同銀行整備事業 | 356㎡ | 観光客数の増：約51,837人 | 実績値[H22] |
| 新規施設 野村財閥屋敷跡（大分銀行跡） | 945㎡※ | 51,837 × 945 / 356 = 137,601人 137,601人 × 50% = 68,800人 ≒ 68,000人 | 予測値[H26] |

※敷地面積 1,182㎡ × 建ぺい率 80% = 945㎡

昭和の町新拠点施設整備事業による観光入り込み客数の増加▶▶▶ 68,000人（ア）

拠点施設である昭和ロマン蔵、昭和の町展示館に続く、新たな拠点が整備されることにより、中心市街地における回遊性の向上が期待され、観光客の滞在時間の増加、それに伴う観光消費額の増加など、西側商店街における波及効果が期待される。

ii) 活動支援事業(昭和の町・プラチナ通り等活性化支援事業 平成23年～平成28年)

「昭和の町」において新たなイベントを実施することにより、観光入り込み客数の増加を図る。

平成21年に玉津プラチナ祭りを開催した際には、市内を中心に約1,000人の来街者があった。玉津プラチナ通りに比べ、人通りが多く、集客力がある西側商店街におい

て、これまでにない昭和にちなんだイベントを開催することで、下記目標数値の達成は可能であると見込まれる。

〈「昭和の町」における新たなイベントの実施による観光入り込み客数の増加予測〉

| 事業名 | 規模 | 入り込み客数増加分 | 備考 |
|-------------------------------------|------------|--|----------|
| 玉津プラチナ祭り | 休日 1回/年 | 入り込み客数：約1,000人 | 実績値[H21] |
| 新規事業 活動支援事業（昭和の町・プラチナ通り等活性化支援事業） | 休日 2回/年 | $1,000 \times 2 \text{回/年} = 2,000 \text{人}$ | 予測値[H28] |

活動支援事業による観光入り込み客数の増加・・・▶2,000人（イ）

西側商店街をメインにイベントを開催することにより、商店街における販売額の増加等といった波及効果が期待される。

iii) 中央公園イベント広場を活用したイベントの継続（平成23年～平成28年）

平成23年度には、リニューアルした中央公園イベント広場で昭和の町誕生10周年記念イベントを実施している。「昭和の町」の魅力向上、集客効果に資するイベントについて、今後も継続して実施していくことにより、観光入り込み客数の増加を図る。

〈中央公園イベント広場を活用したイベントの継続による観光入り込み客数の増加予測〉

| 事業名 | 規模 | 入り込み客数増加分 | 備考 |
|--------------------------------|------------|--|----------|
| 昭和の町音楽祭 | 休日 | 入り込み客数：約3,000人 | 実績値[H23] |
| 昭和の町夏休みイベント | 2回/年 | 入り込み客数：約1,500人 | 実績値[H23] |
| 新規事業 昭和の町・中央公園活用（夏季・秋季）イベント | 休日 2回/年 | $3,000 \times 1 \text{回/年} = 3,000 \text{人}$ $1,500 \times 1 \text{回/年} = 1,500 \text{人}$ | 予測値[H28] |

中央公園を活用したイベントによる観光入り込み客数の増加・・・▶4,500人（ウ）

リニューアルした中央公園をメインに集客を図ることにより、西側商店街における販売額の増加等といった波及効果が期待される。

iv) 相乗効果の見込める各種ソフト事業等

| まちなかの魅力向上に資する事業 | 事業効果 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○拠点施設再点検強化事業 ○修景・チャレンジショップ等支援事業 ○ボンネットバス活用支援 ○昭和の町発！広域観光確立推進事業 ○昭和の町で子育てひろば事業 ○昭和の町新拠点施設オープニングイベント（仮称） ○観光客まちなか回遊性向上事業（仮称） ○旧車ミーティング「昭和の町レトロカー大集合」 ○昭和の町キャンドルナイト ○昭和の町打ち水大作戦／ゆかた DE ナイト in 昭和の町 ○豊後高田昭和の町街並みめぐり ○昭和の町豊後高田おひなさまめぐり ○おかみさん市 ○宝来祭り ○昭和の町なみスタンプラリー ○仏の里・昭和の町豊後高田五月祭 ○高田観光盆踊り大会 ○昭和の町エコマネー事業／昭和の町クリーン大作戦 | <p>これらの事業の相乗効果を図ることにより、「昭和の町」全体の入り込みの波及効果を見込む。</p> |

■ 推計結果（まとめ）

(ア) + (イ) + (ウ) = 74,500 人

⇒ 現況値 H22 年：329,968 人 + 74,500 人 = 404,468 人 ≒ 400,000 人

また、上記事業のほか、平成 23 年 3 月にリニューアルした中央公園、「昭和の町」にマッチした桂川の架け替えなどにより、まちなか回遊性の向上、昭和の景観統一による魅力の向上が図られており、これらの効果も期待できる。

「昭和の 4 つの再生」に基づく取り組みとともに、「昭和の町」のコンセプトをお客さまに伝える「ご案内人制度」についても引き続き取り組みを進め、さらに新図書館における観光情報の発信機能充実など、各種事業の相乗効果を図ることにより確実な目標達成を目指すものである。

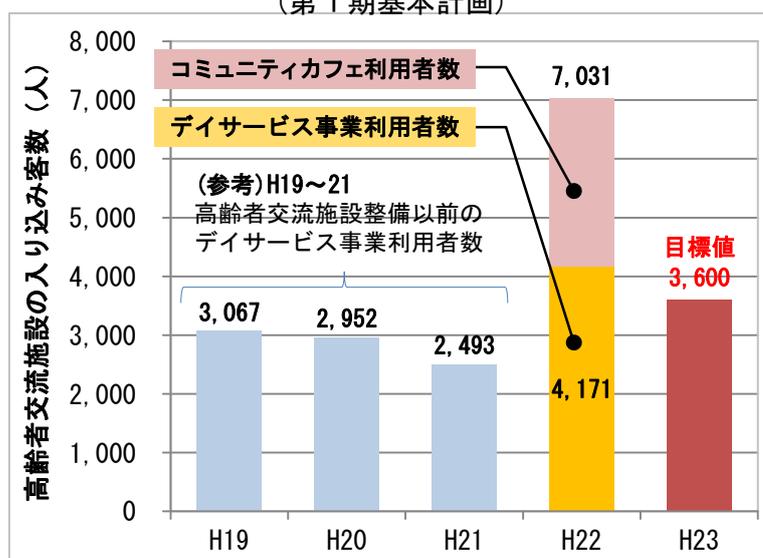
(2) 高齢者が楽しいおまちー進化ーの達成状況を表す指標

1) 目標値の設定

| 評価指標 | 現況値 (H22 年度) | 目標値 (H28 年度) | 備 考 |
|------------------------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 玉津地区“豊後高田昭和の町”高齢者交流施設の入り込み客数 | 7,031 人/年 | 10,000 人/年 | 高齢者交流施設の入り込み客数 |

〈玉津地区高齢者交流施設入り込み客数の推移(再掲)〉
(第1期基本計画)

右記グラフが示すとおり、高齢者交流施設（玉津座銀鈴堂）については、デイサービスの受け入れ人数の増加、その他コミュニティカフェ事業や地域と連携した取り組みによる相乗効果により、当初の目標を大きく上回る結果となった。



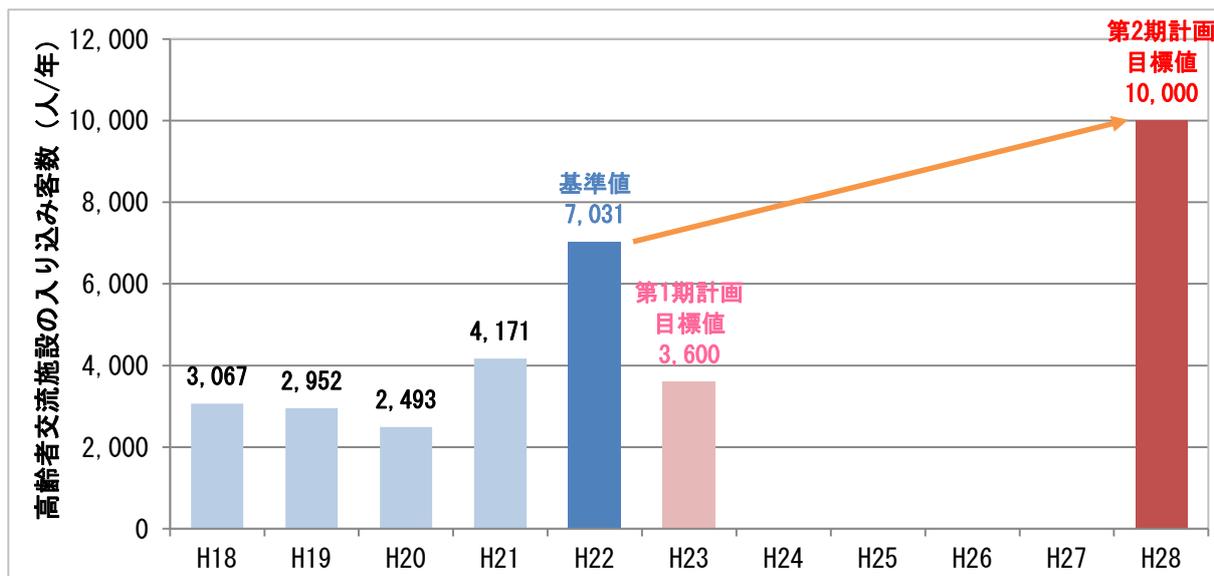
引き続き、「高齢者が楽しいおまち」の進化を目指す玉津地区の拠点施設である「玉津座銀鈴堂」において、平成24年度からはデイサービスの一日当たりの受け入れ人数を14人（現況値）から20人に増やし、年間のデイサービス利用者を4,171人（H22年度）から5,900人に増加させる。

さらに、既存のコミュニティカフェ事業、寄席などのイベント（利用者数2,860人）に加え、デイサービス開所日以外の日曜日に高齢者向けのイベント（バザー等）を実施するなど、機能強化を図ることにより、さらに利用者数を1,200人上乗せする。

以上の取り組みにより、施設入り込み客数を現況値（H22年度）の約7,000人から約3,000人上乗せし、年間10,000人（H28年度）の達成を目指す。

●現況値（H22） 7,031 人……………▶ 3,000 人の純増を目指す。

〈玉津地区“豊後高田昭和の町”高齢者交流施設の入り込み客数の推移と目標値〉



2) 基準値（現況値）設定の考え方

第1期基本計画の目標である平成23年度時点での入り込み客数3,600人については、他事業との相乗効果により、平成22年度時点ですでに大きく上回る結果となった。

平成23年度についても、イベント、健康相談事業、講座等を開催し、事業者、市、商店街を含む地域が連携して、来訪・利用の動機を付与していることから、現状の入り込み数は維持できる見込みである。

したがって、本指標については平成22年度の入り込み客数を基準値とし、「高齢者が楽しいおまち」の進化を目指すため、第1期基本計画より高い目標設定を行うこととする。

玉津地区の拠点施設である「玉津座銀鈴堂」の機能拡充と、玉津のまちづくりのテーマである「遊ぶ・食べる・集う・交流する」を基本に各種取り組みを実行し、各事業の相乗効果を図ることにより、確実な目標達成を目指すものとする。

3) 目標達成に向けた取り組みと期待される効果

①各種取り組みにより期待される効果

| 核施設整備等の事業・取り組み | 事業効果 (人/年) |
|-------------------------------|------------|
| ●集客力のある各施設の取り組み強化 | |
| i) 玉津座銀鈴堂の機能拡充(デイサービスの受け入れ強化) | 1,729人 |
| ●集客力のあるイベントの実施 | |
| ii) コミュニティカフェ事業の実施 | —人 |
| iii) デイサービス開所日以外のイベント実施 | 1,200人 |
| ●相乗効果の見込める各種ソフト事業等 | — |
| iv) 上記取り組みを補完する各種事業 | — |
| 各種取り組みによる増加見込み | 計 約3,000人 |

②期待される効果の推計方法

玉津地区高齢者交流施設「玉津座銀鈴堂」で実施するデイサービス事業について、一日当たりの受け入れ人数の目標を定め、そこから年間のデイサービス入り込み客数を推計する。

また、コミュニティカフェ事業については、これまでの実績値を参考にするとともに、新たに実施するイベントの参加見込み数を定め、同施設に係る全体の年間入り込み客数を推計する。

i) 玉津座銀鈴堂の機能拡充（デイサービスの受け入れ強化 平成24年度～）

玉津地区高齢者交流施設である「玉津座銀鈴堂」の機能拡充を図り、デイサービスの一泊当たりの受け入れ人数を20人/日程度まで拡大することで、入り込み客数の増加を図る。

〈玉津座銀鈴堂の機能拡充による入り込み客数の増加予測〉

| 事業名 | 規模 | 入り込み客数増加分 | 備考 |
|--|---------|-------------------------------|----------|
| 高齢者交流施設「玉津座銀鈴堂」 | 14.3人/日 | デイサービス事業 14.3人×291日=4,171人 | 実績値[H22] |
| 取り組み強化 高齢者交流施設「玉津座銀鈴堂」の機能拡充（デイサービス受け入れ強化） | 20人/日 | デイサービス事業 20人×295日=5,900人 | 予測値[H28] |

玉津座銀鈴堂の機能拡充による入り込み客数の増加・・・▶1,729人（ア）

デイサービス利用者の一泊当たりの受け入れ人数を増やすことにより、年間の入り込み客数増加を図る。デイサービス利用者が増加することにより、必然的にデイサービス終了時の日用品等の買物客も増えることが予想されるため、東側商店街への波及効果が期待される。

ii) 玉津座銀鈴堂コミュニティカフェ事業（平成22年度～）

これまでのコミュニティカフェ事業を継続するとともに、玉津プラチナ寄席後の「歌声喫茶」の開催、空き時間を利用した、高齢者のための「料理教室」「英語教室」「メイク教室」「認知症サポーター養成講座（キャラバンメイトの活用）」等を実施することにより、現状の入り込み客数を維持する。

コミュニティカフェ事業の継続による入り込み客数の維持・・・▶現状維持（イ）

引き続き本事業を実施し、玉津地区への来街目的を付与することにより、同地区の活性化が図られ、東側商店街への波及効果が期待される。

iii) デイサービス開所日以外のイベント実施（平成24年～）

「玉津座銀鈴堂」において、デイサービス事業を実施していない日曜日について、月2回フリーマーケットやバザー等の催しものを実施し、これまで人通りが少なかった日曜日に来街目的を付与することにより、新たな入り込みを目指すものとする。

また、高齢者ふれあい交流事業として「玉津プラチナ通り」で開催する「笑い・遊び・集い」をテーマとした「プラチナ祭り」とタイアップすることにより、事業の相乗効果を図り、確実な目標達成を目指す。

〈デイサービス開所日以外のイベント実施による入り込み客数増加予測〉

| 事業名 | | 規模 | 入り込み客数増加分 | 備考 |
|---------------------------------|---------------------|-------|---|----------|
| 玉津座銀鈴堂でのイベント (寄席・ワンディシェフ企画等) | | 1回あたり | 約50人の入り込み | 最新値[H23] |
| 新規取り組み | デイサービス開所日以外のイベントの開催 | 月2回開催 | 50人×2回/月×12月 =1,200人 ※玉津座銀鈴堂の収容人数は約70人(70%の稼働率を見込む) | 予測値[H28] |

デイサービス開所日以外のイベント実施による入り込み客数の増加 ●▶ 1,200人 (ウ)

日曜日の来街者が増加することにより、同地区の活性化が図られ、東側商店街への波及効果が期待される。

iv) 相乗効果の見込める各種ソフト事業等

| まちなかの魅力向上に資する事業 | 事業効果 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○玉津プラチナ通り等活性化事業支援 ○玉津プラチナ介護予防事業 ○玉津プラチナ健康相談事業(まちの保健室) ○玉津プラチナイきいき健脳教室事業 ○“おまち”ブランド推進・活性化事業 ○プラチナ笑話館活用事業(遊戯館の活用も含む) ○地産地消体験施設整備事業(仮称) ○プラチナ通り元気・健康促進事業(仮称) | <p>これらの事業の相乗効果を図ることにより、「玉津座銀鈴堂」入り込みの波及効果を見込む。</p> |

■ 推計結果（まとめ）

(ア) + (イ) + (ウ) = 2,929人 ≒ 3,000人

⇒ 現況値 H22年 7,031人 + 2,929人 = 9,960人 ≒ 10,000人

「玉津座銀鈴堂」のほか、新たな拠点施設として高齢者が集うサロン（プラチナ笑話館：平成23年10月オープン）を整備した。本施設を老人クラブの活動拠点として、ひとり暮らし老人宅への電話サービスや高齢者向けの情報発信、商店街との連携など、様々な活動を展開することとしている。

さらに「玉津座銀鈴堂」に隣接する福祉事務所玉津プラチナ支所において、健康相談事業、認知症予防事業、介護予防事業等の健康づくり事業を実施し、各事業の相乗効果を図ることにより、健康で元気な高齢者のまちづくりを目指し、玉津地区全体の活性化につなげていく。

(3)市民がうれしいおまち－創造－の達成状況を表す指標

1) 目標値の設定

| 評価指標 | 現況値 (H22 年度) | 目標値 (H28 年度) | 備 考 |
|-------------|-----------------|-----------------|-------------|
| 新図書館の年間利用者数 | 8,389 人/年 | 30,000 人/年 | 新図書館を利用する人数 |

公共機関の集積する最も利便性の高い場所に、新図書館を建設する（平成 25 年 2 月開館予定）。従来の図書館機能の充実を図るとともに、市民講座、読み聞かせ事業、観光情報の発信などといった新たな機能を整備することにより、中心市街地への新たな来街目的を付与する。

また隣接する市庁舎移転後の用地には、都市公園を整備する予定である。整備予定地は、裸祭りなど市を代表するお祭りが行われる桂川河川敷

に隣接すること、また同地が高齢者のまちづくりを進める玉津地区にあることなどから、「学び・お祭り・高齢者の健康づくり」をコンセプトに整備する方針である。

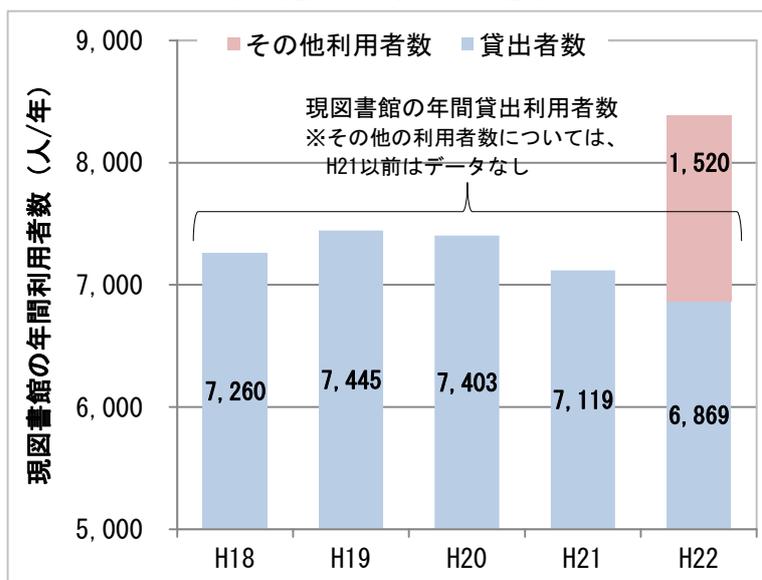
したがって、当公園については新図書館の景観とマッチするよう一体的に整備を行うとともに、お祭りイベント広場、高齢者の健康づくりに寄与できる遊具等を設置する方針である。

お祭りイベント広場については、図書館でのイベントや「昭和の町」のイベントと連携を図りながら活用することにより、多くの市民、観光客を誘客する。

これらの取り組みにより、「さらなる“まちなか”のにぎわい創出」、「昭和の町、玉津地区、新図書館等が集積する地区、3 地区の回遊性向上」、そして「“まちなか”滞在時間の延長」が期待される。

以上のことから、図書館建設事業、都市公園整備事業及びその他事業の相乗効果を図ることで、図書館の年間利用者数について、現図書館（中心市街地エリア内）の 8,389 人（H22 年度）から目標値 30,000 人（H28 年度）の達成を目指す。

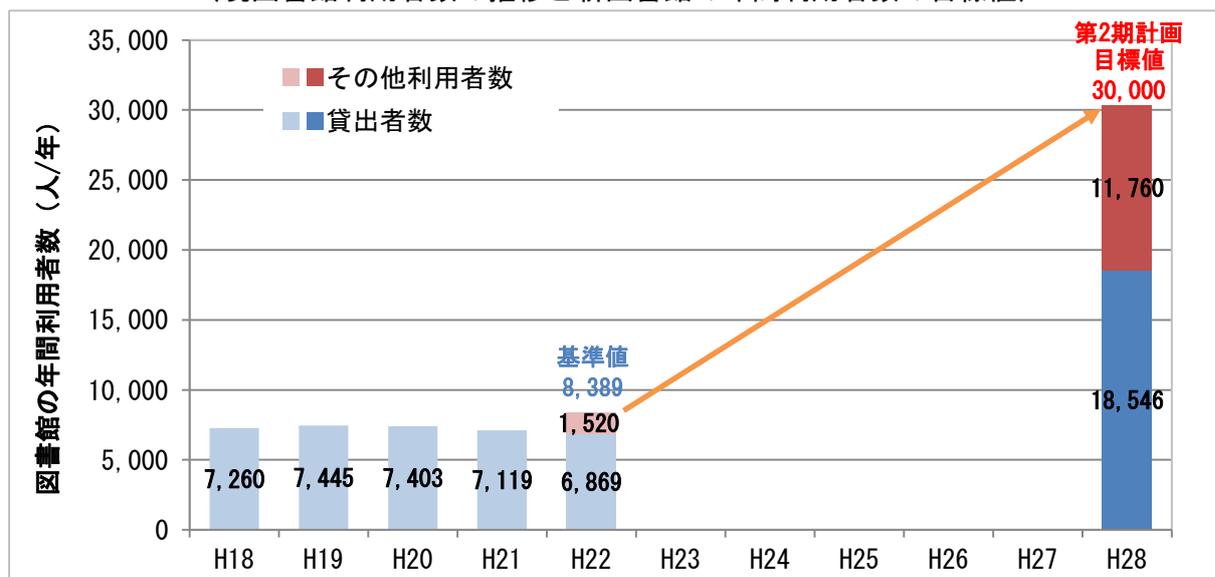
〈現図書館利用者数の推移〉



（豊後高田市資料より）

●現況値（H22） 8,389 人……………▶ 年間 30,000 人の利用を目指す。

〈現図書館利用者数の推移と新図書館の年間利用者数の目標値〉



2) 基準値（現況値）設定の考え方

平成 22 年度の現図書館における年間利用者数 8,389 人を基準値とする。なお、貸出者数以外の図書館利用（学習、閲覧のみ）の人数については、平成 21 年以前については、データがなく不明であるが、学習スペース、蔵書数等に大きな変化はないことから、平成 22 年度の値と大きく変わらないと思われる。

3) 各種取り組みにより見込まれる効果

①各種取り組みにより期待される効果

| 核施設整備等の事業・取り組み | 事業効果（人/年） |
|---------------------------|------------|
| ●新図書館の機能向上 | |
| i) 図書館の機能向上（蔵書数、開架スペースの増） | 18,546 人 |
| ●新図書館における付加価値 | |
| ii) 市民講座の開催 | 480 人 |
| iii) 読み聞かせ事業の開催 | 480 人 |
| iv) 観光情報の発信 | 6,600 人 |
| v) 学習機能の充実 | 4,200 人 |
| ●相乗効果の見込めるその他事業等 | — |
| vi) 上記取り組みを補完する各種事業等 | — |
| 各種取り組みによる年間利用者数見込み | 計 30,306 人 |

②期待される効果の推計方法

現図書館の貸し出し利用人数、蔵書数をもとに、新図書館の貸し出し利用者数を推計するとともに、新たに付与する新図書館の機能向上から、学習、閲覧利用者数、市民講座等の実施に伴う利用者数を推計する。また、近隣類似団体の同規模の図書館の利用者数を参考にしながら、同施設に係る全体の年間利用者数を推計する。

i) 図書館の機能向上（蔵書数、開架スペースの増）（平成 25 年度～）

図書館の蔵書数が少ないためか、他市の図書館を併用する市民が多い。市民一人当たりの蔵書数は 2.1 冊、貸出冊数は 1.1 冊で、大分県近隣自治体に比べると低い数値となっている。また開架スペース（閲覧箇所）もかなり狭小である。

そのため、人口規模に見合った蔵書数、開架スペースを確保することにより、新たな利用者数の増加を図る。

〈図書館の機能向上による利用者数増加予測〉

| 事業名 | | 規模 | 利用者数増加分 | 備考 |
|------|-----------------------|---|--|-----------|
| 現図書館 | | 蔵書数約：52,000 冊 開架スペース：134.21 m ² | 6,869 人 | 実績値 [H22] |
| 新規事業 | 図書館建設事業 (図書館機能の向上) | 蔵書数：約 140,000 冊 開架スペース：1,068.28 m ² | 140,000 冊 / 52,000 冊 ÷ 2.7 6,869 人 × 2.7 = 18,546 人 | 予測値 [H28] |

新図書館の機能向上による利用者数 → 18,546 人 (ア)

ii) 市民講座の開催による利用者数（平成 25 年度～）

現図書館には生涯学習の場となるスペースがないため、新図書館には新たな集会スペースを設けることにより、利用者数の増加を図る。

本スペースを活用し、市民が講師や受講者となる講座等を実施することにより、市民にとっても魅力ある中心市街地の形成を目指す。

現図書館には、市民講座を開催するスペースがないため、実績等はない。

新図書館における市民講座を開催する集会スペースは概ね 28 席となる予定である。そのため、集会スペースの収容人数等も鑑み、平成 25 年度から 1 回あたり 20 名規模の「市民きらきら学び塾事業」等の実施を予定している。

〈市民講座の開催による利用者数増加予測〉

| 事業名 | | 規模 | 利用者数 | 備考 |
|------|----------------------|------|-------------------------|----------|
| 現図書館 | | — | — | — |
| 新規事業 | 図書館建設事業 (市民講座の開催) | 2回/月 | 20人/回×2回/月×12月 =480人 | 予測値[H28] |

市民講座の開催による利用者数…▶480人(イ)

iii) 読み聞かせ事業の開催による利用者数(平成25年度～)

これまで、子どもを対象に月1回実施していた読み聞かせ事業について、新図書館では規模を拡大させて実施することにより、利用者数の増加を図る。

〈読み聞かせ事業の開催による利用者数増加予測〉

| 事業名 | | 規模 | 利用者数 | 備考 |
|------|-------------------------|------|-------------------------|----------|
| 現図書館 | | 1回/月 | 10人/回×1回/月×12月 =120人 | 実績値[H22] |
| 新規事業 | 図書館建設事業 (読み聞かせ事業の開催) | 2回/月 | 20人/回×2回/月×12月 =480人 | 予測値[H28] |

読み聞かせ事業による利用者数…▶480人(ウ)

iv) 観光情報の発信による利用者数(平成25年度～)

「昭和の町」や「高齢者が楽しいおまち」のコンセプトでまちづくりを進めている「玉津プラチナ通り」にも近いという立地特性を活かし、地域の情報拠点として、観光情報の発信を図る。

これにより、同区域への新たな来街目的を付与し、西側商店街→図書館→市民・高齢者向けのまちづくりを進める東側商店街への新たな回遊ルートを構築し、来街者の増加を図る。

目標数値の設定にあたっては、現図書館、現市役所(新図書館に隣接、H27年に移転予定)についても、観光情報を求めに来館・来庁している実態を勘案する。

また、現在、中心市街地ある公共の観光案内所は昭和ロマン蔵内に設置しているものが主であるため、新図書館の観光情報発信については、当該案内所と連携を図るとともに、広域観光促進に資する情報発信機能も付加させ、昭和ロマン蔵来訪者の誘客を図ることとする。さらに、中心市街地全体の回遊性向上を図るため、平成23年度から実施しているレンタサイクル事業について、新図書館にサイクルポート機能を設置

するなどして、観光情報発信と絡めた新たな誘客を目指すものとする。

上記を踏まえた上で、本取り組みによる利用者数を下記のとおり設定する。

| 事業名 | 休日利用者 | 平日利用者 | 備考 |
|-----------------------------------|--------|---------|---|
| 現図書館の観光情報利用者 | 3人/日 | 3人/日 | 現況推計値 |
| 現市役所の観光情報利用者 | 0.5人/日 | 1人/日 | 現況推計値 |
| 昭和ロマン蔵内にある観光案内所からの誘客利用者 (目標5%) | 32人/日 | 3人/日 | 昭和ロマン蔵観光案内所利用者 (H22実績値：最少月で算出) 休日平均650人うち5% (32人) 平日平均65人うち5% (3人) |
| レンタサイクルポートの設置 | 6.5人/日 | 3.1人/日 | レンタル実績(昭和ロマン蔵) (H23実績値) 休日19.6人、平日9.2人 休日 $19.6 \times 1/3$ (※) = 6.5人 平日 $9.2 \times 1/3 = 3.1$ 人 |
| 計 | 42人/日 | 10.1人/日 | |

※昭和ロマン蔵に配置しているレンタサイクル台数の3分の1を設置すると仮定

〈観光情報の発信による利用者数増加予測〉

| 事業名 | 規模 | 利用者数 | 備考 |
|------------------------------|----------------------|--|-----------|
| 現図書館 | — | — | — |
| 新規事業 図書館建設事業 (観光情報の発信) | 休日 40人/日 平日 10人/日 | 40人 × 120日 = 4,800人 10人 × 180日 = 1,800人 | 予測値 [H28] |

観光情報の発信による利用者数…▶ 6,600人 (工)

上記の取り組みにより、来街者の増加のほか、滞在時間の増やそれに伴う観光消費額の増が見込まれ、西側商店街、東側商店街への波及効果が期待される。

▽) 学習機能の充実による利用者数 (平成25年度～)

現図書館については、学習スペースが狭小のため、利用者も少なかった。新図書館については、小中高校生をはじめ、大人も利用できる十分なスペースを確保した学習室を整備することにより、利用者の増加を図る。

利用者数については、新図書館の学習室が50席規模となる予定であることから、休日・長期休暇では平均稼働率80%の40人を見込むが、図書館利用との重複も考慮し、その半数の20人を利用者数として設定する。

また平日では平均稼働率30%の15人を見込むが、同様に図書館利用との重複を考慮し、その半数の8人を利用者数として設定する。

〈学習機能の充実による利用者数増加予測〉

| 事業名 | 規模 | 利用者数 | 備考 |
|------------------------------|--------------------------|-----------------------------------|----------|
| 現図書館 | 1日平均3名 | | — |
| 新規事業 図書館建設事業 (学習機能の充実) | 休日・長期休暇：20人/日 平日：8人/日 | 20人×150日=3,000人 8人×150日=1,200人 | 予測値[H28] |

学習機能の充実による利用者数 → 4,200人(才)

vi) 相乗効果の見込めるその他事業等

| まちなかの魅力向上に資する事業 | 事業効果 |
|--|---|
| ○御玉市民公園整備事業(仮称) ○観光客まちなか回遊性向上事業(仮称) | これらの事業の相乗効果を図ることにより、「新図書館」の利用者数の波及効果を見込む。 |

■ 推計結果(まとめ)

(ア) + (イ) + (ウ) + (エ) + (オ) = 30,306人 ≒ 30,000人

⇒ 現況値 H22年：8,389人 ⇒ 30,306人 ≒ 30,000人

〈参考：現図書館と新図書館の比較〉

| | 現図書館 | 新図書館 |
|-------|-----------------------|----------------------|
| 図書館面積 | 194.21 m ² | 2,076 m ² |
| 駐車場 | 専用駐車場なし | 28台 |
| 駐輪場 | 専用駐輪場なし | 63台 |

〈参考：県内類似団体図書館利用者実績〉

| | 津久見市図書館 | 本市新図書館 |
|------|----------------------|----------------------|
| 延床面積 | 2,458 m ² | 2,076 m ² |
| 蔵書数 | 143,000冊 | 140,000冊 |
| 利用人数 | 23,000人 | (※) 18,546人 |
| 人口 | 21,000人 | 24,757人 |

※利用人数は、本計画の目標値

[5] フォローアップ

それぞれの目標値について、以下の方法で数値を把握し、中心市街地活性化協議会などに報告する。

〈評価指標のフォローアップ〉

| 評価指標 | フォローアップ |
|---|---|
| <p>指標 1 豊後高田昭和の町の年間観光入り込み客数</p> | <p>年間の観光入り込み客数を目標値として設定しているため、観光拠点施設である昭和ロマン蔵の入り込み客数について、同施設を管理運営する市観光まちづくり株式会社に、毎年報告させて確認し、必要に応じて事業を促進するための措置を講じるものとする。また計画期間の中間年である平成 26 年の観光入り込み客数により、達成状況を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じ、さらに、計画期間の最終年にも再度検証を行うものとする。</p> |
| <p>指標 2 玉津地区“豊後高田昭和の町”高齢者交流施設の入り込み客数</p> | <p>高齢者交流施設「玉津座銀鈴堂」の利用者数を目標値として設定しているため、施設を管理運営する事業実施者に、毎年度報告させて確認し、必要に応じて事業を促進するための措置を講じるものとする。また計画期間の中間年度である平成 26 年度の入り込み客数により、達成状況を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じ、さらに、計画期間の最終年度にも再度検証を行うものとする。</p> |
| <p>指標 3 新図書館の年間利用者数</p> | <p>市の施設である新図書館の年間利用者数を目標値として設定しているため、図書館を所管する部署に、毎年度報告させて確認し、必要に応じて事業を促進するための措置を講じるものとする。また計画期間の中間年度である平成 26 年度の利用者数により、達成状況を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じ、さらに計画期間の最終年度にも再度検証を行うものとする。</p> |

[6] 参考指標の設定〈参考数値の把握に基づく効果の検証〉

目標1 いとおしく懐かしいおまち—飛躍—

目標2 高齢者が楽しいおまち—進化—

上記のまちづくりを進めていく上で、第1期基本計画と同様、真に活力ある中心市街地の活性化を実現するためには、こうした取り組みが中心市街地活性化のために相当程度寄与するものであることを、より正確に把握する必要がある。

そのため、効果の把握・検証を行うための指標として、3つの数値目標に加えて、以下の指標を参考指標として設定する。

■ 豊後高田昭和の町の観光客滞在時間の増

上記指標は、第1期基本計画では「いとおしく懐かしいおまち—進化—」の達成状況を把握するための数値目標として設定した。しかし、p.45で記載したように本指標については、平成22年度の結果から調査日の天候、客層によって大きく数値が変動することが分かったことから、指標としては不確定な部分があると判断し、本計画では正式なものとして設定していない。

しかし、本計画の「いとおしく懐かしいおまち—飛躍—」の目標は、西側商店街の活性化を念頭に設定しており、その達成のためには、各種事業の相乗効果を図ることにより、昭和の町の観光入り込み客数を増加させるとともに、まちなかの回遊性を高め、滞在時間を延長させ、観光消費額の増加につなげていくことが必要である。

以上のことから、「滞在時間」については、前述のとおり不確定な部分があるものの、全体的な効果を検証するためには把握すべき指標であるとも考えられ、また、これまでの調査の連続性も考慮して、本計画においては参考指標として設定するものとする。

なお、設定方法についても見直しを行うこととする。

■ 玉津プラチナ通りの入り込み客数

玉津のまちづくりについては、「高齢者が楽しいおまち—進化—」をコンセプトに、様々な取り組みを実施していくこととしている。その中では、高齢者のみにとらわれず、子ども・大人・プラチナ世代といった、世代を超えた多くの市民の来訪を促すため、東側商店街をメインとする通りを「玉津プラチナ通り」と称し、「遊ぶ・食べる・集う・交流する」の4つのテーマで、さらに魅力あるまちづくりを進めている。

昭和の町の拠点施設「昭和ロマン蔵」のように、「玉津に訪れたら、必ずその施設を訪れる」というものはないが、本計画においては、玉津地区の拠点施設である「玉津座銀鈴堂」のほか、新たな交流施設の整備や、にぎわい・魅力の創出を図り、来街目的を付与することとしている。

したがって、玉津プラチナ通り全体の年間来街者を、各施設等の入り込み客数の積み上げ（重複分を含む）により把握することにより、玉津商店街全体の定量的な効果を測定・検証できると考えられることから、本計画において、参考指標として設定するものとする。

(1)豊後高田昭和の町の観光客滞在時間の増

第1期基本計画の評価指標は、滞在時間が2時間を超える観光客の割合を設定した。しかし、この指標では、2時間未満の観光客の滞在時間延長分が反映されないことから、観光客全体の滞在時間の延長を把握するために、平均滞在時間を評価指標として設定することとする。

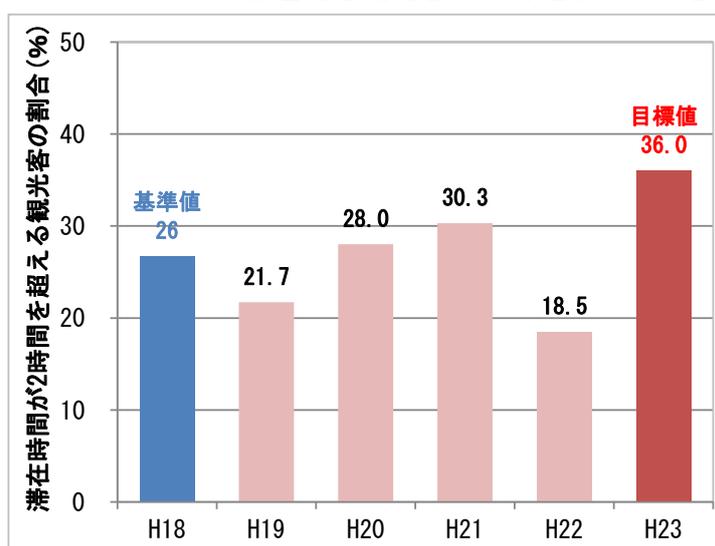
〈観光客平均滞在時間の現況と目標〉

| 評価指標 | 現況値 (H21年度) | 目標値 (H28年度) | 備考 |
|------------|----------------|----------------|-----|
| 観光客の平均滞在時間 | 94.3分 | 108.7分 | 個人客 |

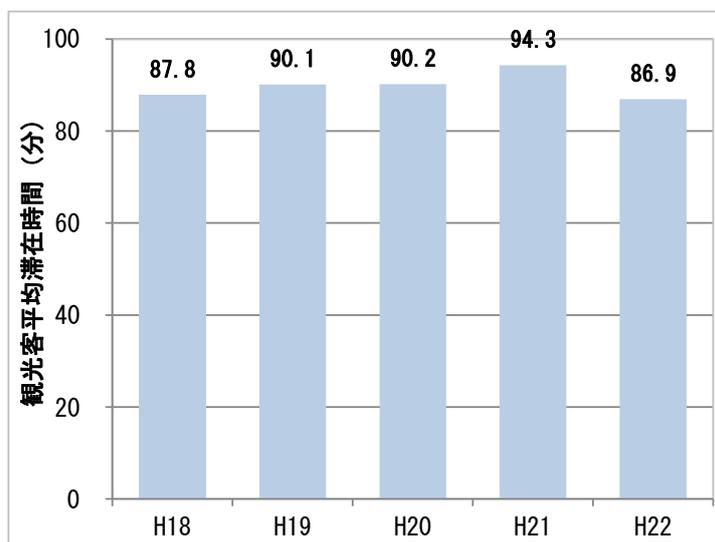
※アンケートによる聞き取り調査

■第1期基本計画指標

〈滞在時間が2時間を超える観光客の割合推移（個人客）〉

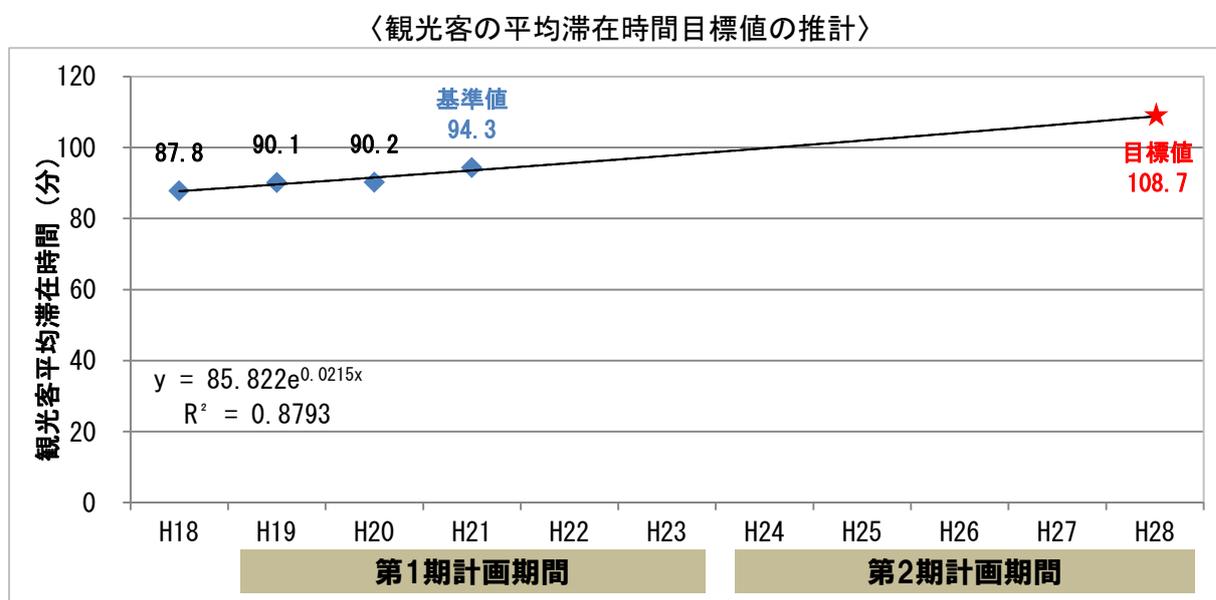


〈平均滞在時間の推移（個人客）〉



■本計画の参考指標について

平成 22 年度の値については、特殊要因が影響していることから参考とせず、調査を開始した平成 18 年度から直近の実測値となる平成 21 年度までの 4 力年の傾向から、平成 28 年度の目標値を推計する。



■第1期基本計画の滞在時間推計（再掲）

第1期計画の滞在時間の増に係る目標は、策定時点の現況値約 90 分から新規施設の整備により 138 分の延長を図り、合計で 228 分とし、結果として 2 時間を超える割合を 26%から 36%にするものであった。

〈事業・取り組みと期待される事業効果〉

| 観光拠点施設等 | | 施設面積 | 滞在時間 | 現行の滞在時間は計約 90 分 |
|---------|--|------------------------|----------------------------|-----------------|
| 現行 | 商店街回遊 | — | 60 分 | |
| | 駄菓子屋の夢博物館 昭和の絵本美術館 | 計 741 m ² | 30 分 | |
| 新規施設 | 昭和の夢町三丁目館（昭和ロマン蔵の北蔵）、旧大分合同銀行の空きビル、野村財閥屋敷跡・大分銀行跡の施設 | 計 1,934 m ² | 30 × 1,934 / 741 = 78 分の延長 | |
| | 旬彩南蔵 | | 60 分 | |
| 計 | | | 228 分 | |

野村財閥屋敷跡（大分銀行跡）の拠点施設整備の遅延や平成 19 年に端を発した世界同時不況に伴う景気低迷など影響から、滞在時間延長という面では、新規施設整備の効果は、当初見込んでいたほど発現していない状況にある。

しかし、このような厳しい状況の中においても、平均滞在時間は確実に伸びている。今後においても、遅延となっている拠点施設の確実な整備、「昭和の 4 つの再生」に基づく景観の統一、昭和にちなんだ新たなイベントの実施、昭和の町のコンセプトをお客様に伝える「ご案内制度」の継続的な実施や夢町小学校での授業体験プラン等、

さらに「昭和の町」の魅力を高めていくこととしており、これまでの滞在時間の延長基調は維持できるものと考えられる。

(2)玉津プラチ南通りの入り込み客数

玉津地区の拠点施設である「玉津座銀鈴堂」の他、4つのテーマに沿ったまちづくりに基づき整備する施設等の入り込み客数の合計を参考目標値として設定する。

| 評価指標 | 現況値 (H23年度) | 目標値 (H28年度) | 備考 |
|-----------------|----------------|----------------|------------------------|
| 玉津プラチ南通りの入り込み客数 | — | 69,000人 | 各施設の年間入り込み客数の合計（重複分含む） |

「高齢者が楽しいおまち」を“進化”させる4つのテーマ『遊ぶ・食べる・集う・交流する』に沿った取り組みと健康増進に資する取り組みを進めることで、玉津プラチ南通りの入り込み客数増加が図られるものと考えられる。

〈事業・取り組みと期待される事業効果〉

| 事業・取り組み | 積算根拠 | 事業効果 |
|-----------------------------|--|----------------|
| ■遊ぶ | | —人 |
| 1 遊戯館(H21～)（プラチナ笑話館に包含） | | —人 |
| 2 玉津プラチナ寄席（玉津座銀鈴堂に包含） | | —人 |
| ■食べる | | 29,085人 |
| 3 手打ちそば屋(H22～) | H22の実績 | 29,085人 |
| ■集う | | 12,000人 |
| 4 高齢者交流施設「玉津座銀鈴堂」(H24～)※ | p. 99 参照 | 10,000人 |
| 5 高齢者交流施設「プラチナ笑話館」(H23.10～) | 市内高齢者人口約8,000人のうち25%を目標 8.2人/日×243日 | 2,000人 |
| ■交流する | | 26,217人 |
| 6 農産物直売所「夢むすび」(H22～) | H22の実績 | 26,217人 |
| □4つのテーマに関連する取り組み | | 1,000人 |
| 7 玉津プラチナ祭り | H21の実績 | 1,000人 |
| □健康増進に資する取り組み | | 720人 |
| 8 玉津プラチナ介護予防事業(H23～) | 20人/回×2回×3月 | 120人 |
| 9 玉津プラチナ健康相談事業(H23～) | 5人/回×8回×12月 | 480人 |
| 10 玉津プラチないきいき健脳教室事業(H23～) | 10人/回×2回×6月 | 120人 |
| 合計 | | 69,022人 |
| ※上記取り組みを補完する事業 | | |
| “おまち”ブランド推進・活性化事業(H23～) | | |
| 地産地消体験施設整備事業（仮称） | | |

※高齢者が楽しいおまち—進化—の指標